

## 知って役立てよう「育ちをつなぐツールや組織」

### 「児童保育要録」「幼児指導要録」「園児指導要録」

H21年度より、保育所等でも要録の作成が義務化され、就学前の育ちが記録として、年度末に就学先へ写しが送付されています。担任の目を通した園での生活の様子、性格や特技、長所など一人一人の理解につながり、指導のヒントとしても生かすことができます。

### 就学支援情報ファイル 通称：ピンクのファイル

市では、福祉部子ども課と教育委員会が連携して就学に関する事業を行っています。就学教育相談や満5歳すてっぷ相談、就学時健診など各種検査や相談等の資料、園での支援員の配置状況などを1冊のファイルにまとめ、各小学校に3月中に送付しています。新1年生担任が把握することで、学校生活のスタート時から具体的な配慮や支援を考えたり、学級経営のヒントとして活用したりすることができます。\*検査結果の詳細は、保護者の同意を得ている内容について、教育委員会に問い合わせることができます。

### 幼児通級指導教室「育ちの教室 ぐんぐん」

入学後の集団での生活や学習に不安を抱えている年長児を対象に、9月から3月まで少人数集団で通級指導を行っています。教育研究所の就学支援員が小学校の生活や学習を想定して指導をしていますので、その指導記録を就学後の指導に生かすことができます。就学支援員は、保護者との関係性も築かれており、就学の橋渡しや相談役もしていることから、小学校1年生担任への情報提供が可能です。

### 就学を支える専門家のネットワーク

就学までの子どもの発達や家庭の支援に複数の専門家が継続して関わっている体制、そして専門家の横のつながりが大館の強みです。子どもの行動の変化、保護者からの相談や訴え、指導面の困難さ、就学指導の進め方など、情報提供はもちろん、園内発達支援委員会や校内教育支援委員会への参加、個別の指導計画作成への指導助言などを依頼することで早期の適切な対応につながります。

- ・子ども課（社会福祉士、臨床心理士、家庭相談員、母子相談員、巡回支援専門員、連携アドバイザー） ☎43-7054
- ・教育研究所（就学支援員、スクールカウンセラー、幼児教育アドバイザー） ☎43-7114
- ・学校教育課（教育監、就学指導・特別支援教育担当、臨床心理士） ☎43-7112
- ・秋田県立比内支援学校（地域支援担当、教育専門監、特別支援教育コーディネーター） ☎55-2131

### ことばと学びの小テスト

小学校の通級指導教室が中心となって、就学後の学習への困難さを早期に気づき、自校での個別指導、通級指導教室、必要に応じて諸検査につなぐために小学校1年生の1学期末に悉皆調査を実施しています。特に、学習の基礎になる「読み」「書き」は、学習空白が長くならないように、通級指導教室の利用をはじめ、個別指導やTTでの指導ができる校内体制の工夫が必要となります。各通級指導教室では、指導のための教材を貸し出ししています。

- ・通級指導教室 桂城小 ☎42-4910(直) 扇田小 ☎55-0043(職員室)

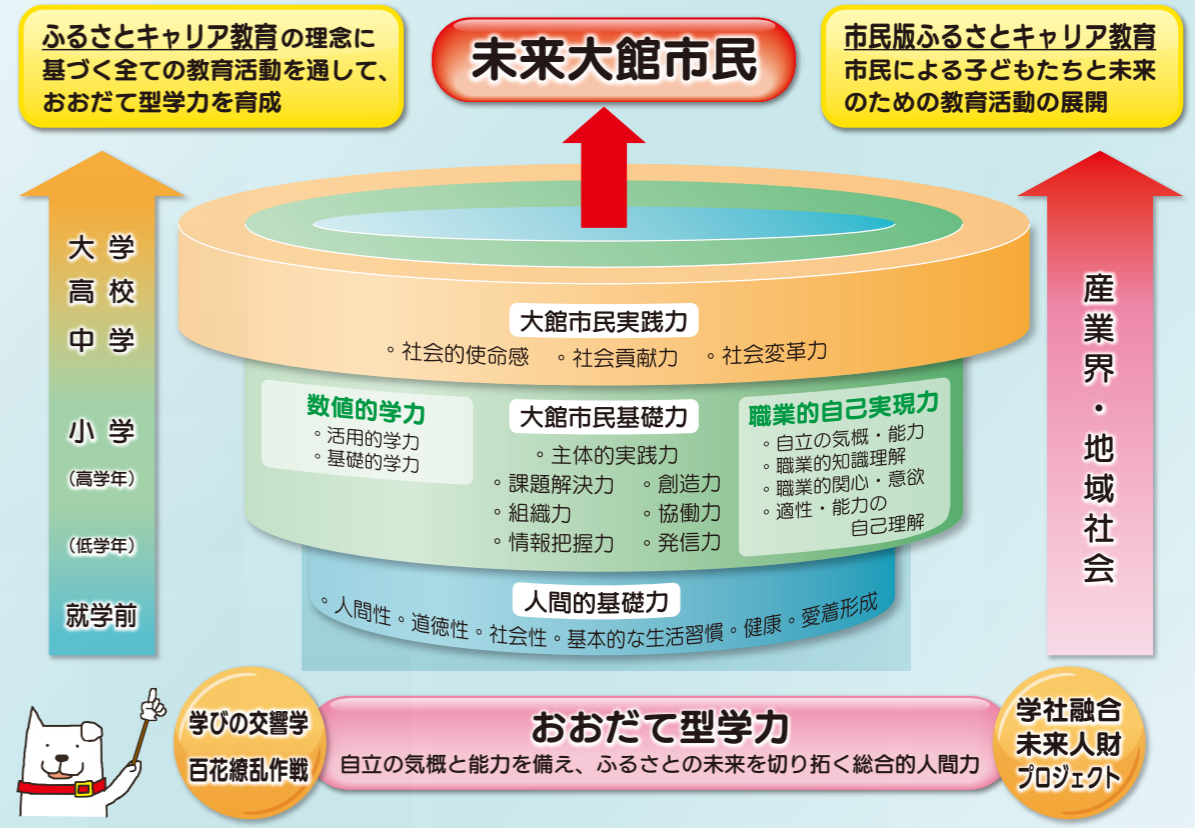
<幼保小連携 おおだて型学力「人間的基礎力」育成 大館モデル>

## 豊かな生活や遊びの体験を 育ちと学びのエネルギーに変える!!

就学前と小学校、子どもの育ちと学びは連続しているのに、小学校入学を境に子どもにとっての生活環境は大きく変わります。年長児と小学校一年生はともに同じ発達の時期にありながら、就学前の教育・保育の在り方と小学校教育は内容も方法も異なります。互いの教育・保育に携わる教職員が、その違いを理解した上で、小学校側は一年生の育ちは均一ではないことを前提に、子ども一人一人の実態を十分理解し、その発達の特性に応じた指導や学級経営に取り組む必要があります。その意味では、幼保小連携を推進する教職員は、子どもの遊びや学びの中からどんな力が育っているかを共有することが大切です。

幼保小連携大館モデルでは、安易に小学校の段差を低くすることよりも、子どもの期待や挑戦意欲に応えながら段差を乗り越えた自信を、たくましい育ちへつなげることを目指します。

## 未来大館市民を育成する「おおだて型学力」構想図



大館市はすべての教育・保育施設や学校が連携し、「大館ふるさとキャリア教育」を通して、ふるさとを担う気概と能力を備えた「未来大館市民」の育成に取り組んでいます。校種や所管等の垣根を越え、共に大館の子どもを育てる大人の意識が連携の第一歩となります。

年長児

●根拠のない自信とふくらむ期待 ●子ども主体の保育の展開

子ども一人一人の伸びゆく可能性を信じて、子どもの主体性が存分に発揮できる保育を展開します。子ども達が少し背伸びして「やってみたい」と思う気持ちを支え、試行錯誤や失敗も学びの機会として保障します。結果よりもプロセスの中で子どもの成長を見取り、励ますことで自信につなげます。また、知的好奇心や探究心を引き出す環境の構成を工夫し思考力の芽生えを育みます。

●温かな触れ合いと甘えの受容

仲間と協同しながら遊びを持続させ達成感を味わい、人間関係を学ぶ年長児。自立心が高まる反面、時には身近な大人に甘えて気持ちを休め、安心することが次の意欲につながります。

●学びの喜びと成長の実感 ●学びに向かう姿勢づくり

入学したての一年生は、勉強を楽しみにしています。張り切った気持ちを生かして、学び方を具体的に示し、「できるようになった」喜びが味わえるようにします。子ども一人一人が主体的に取り組む時間を大切に、期を逃さず褒めて学びの定着と学級集団の成長につなげます。

●安心感ある学級への所属感

間違いや「分からない」が受容される温かい人間関係づくりが、子どもの学びを支えます。なにより、教師の肯定的、受容的な姿勢が安心感のある学級の雰囲気醸成を醸し出します。

1年生



- 幼保小連携推進会議 (主任)
- 幼保小担任研修会 (年長)
- 地区別合同研修会 (年長担任)
- 園関係者評価委員会(前)
- 公開保育
- 市教研生活科部会ほか
- 要録(写)の送付
- 園関係者評価委員会(後)
- 教職員実践発表会
- 小学校への申し込み

- 幼保小連携推進会議 (教頭)
- 幼保小担任研修会 (二年生)
- ことばと学びの小テスト
- 年次別研修での保育体験
- 地区別合同研修会 (一年担任)
- 学区内の保育参観
- 園関係者評価(前)
- 公開保育参観
- 就学時健診
- 園関係者評価(後)
- 教職員実践発表会
- 新一年生情報交換会

「年長さん」としての自覚が、大きな成長に。年長ならではの社会体験や行事、役割を。

仲間と試行錯誤して遊びを楽しむ中で協同する経験を。

学校への関心、文字への興味が一気に膨らむ時期。意欲を満たせる環境の構成を。

真似っこ名人の一年生。説明や指示より、モデルを示してゴールのイメージを明確に。

後輩が入ってくると、急に大人びる一年生。教えたくてしかたがない…その目的意識を教科学習に生かして。

自ら挑戦する遊びを通して達成感を。

学校文化は子どもにとって未知の世界。一つ一つ教えて、出来たら褒める、認めるをスモールステップで。

「できるかな？」挑戦意欲をくすぐりながら学級づくり。間違いが許される温かい人間関係を基盤に。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

健康な心と体  
協同性  
自立心  
道徳性・規範意識の芽生え  
社会生活との関わり  
思考力の芽生え  
自然との関わり・生命尊重  
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚  
言葉による伝え合い  
豊かな感性と表現